

事例 35

らちはま 埼玉防災緑地用地への国有林野の提供

(関東森林管理局 いわき磐城森林管理署)



- 福島県 新地町（しんちまち）
谷地小屋（やちごや）
埼玉防災緑地
- 防災緑地用地の事業区域の様子

関東森林管理局磐城森林管理署では、埼玉防災緑地の整備に伴い必要となる用地として、国有林野の提供を行いました。

埼玉防災緑地は減災の考えに基づく多重防御の1つとして福島県が計画したもので、かさ上げされた海岸堤防の背後に造成されており、大規模な津波の被害を軽減するとともに、地域の憩い・交流の場としての役割もっています。平成26年8月に関東森林管理局と福島県との間で防災緑地敷としての無償貸付契約を締結し、これまで県や地域が中心となった整備とその活用が進められてきました。地元小学生がどんぐりを集めて苗木を育成して植栽する「どんぐりプロジェクト」や、地域住民や民間企業が参加する下刈等地域の憩いの場や交流の場として地域の活性化にも貢献してきました。こうした活動が行われる中、令和2年2月に福島県と国有財産売買契約が結ばれ、国有林野の提供に至っています。

今後も東日本大震災の復旧・復興に向けた事業の推進に協力するため、関係機関と連携しつつ、国有林野の提供を行うなど適切に対応していくこととしています。